

常澄地区の水害

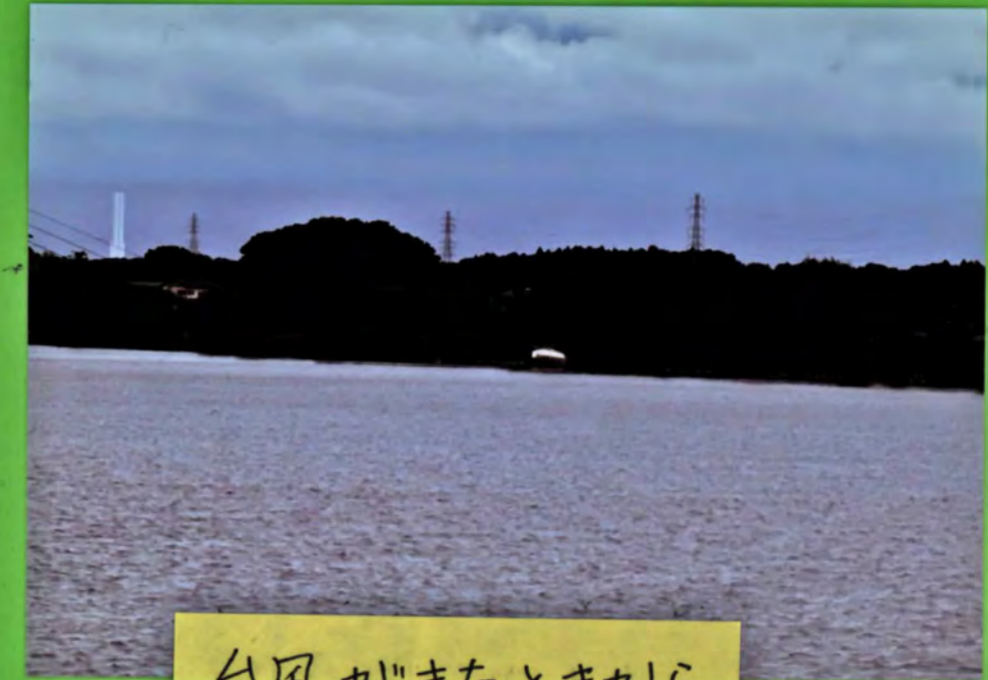
常澄中学校1年車田伊織

調べたき、かけ

令和元年に起きた台風19号による那珂川や涸沼川の氾濫で、常澄地区ではどのような被害があったのか、洪水ハザードマップをもとに調べたくなった。



この道路を水がこえていたら、家が水没していた。



台風がきたときから、舟が陸にあがったままで、引きあげることができないらしい。(ひたちなか側)



ガードレール付近まで水がきた。



令和元年10月の台風19号で、那珂川が氾濫し、田んぼが全て水没した。橋本から牛が流されてきた。



石川
小さい川だけれど、大雨が降ると氾濫しやすい。



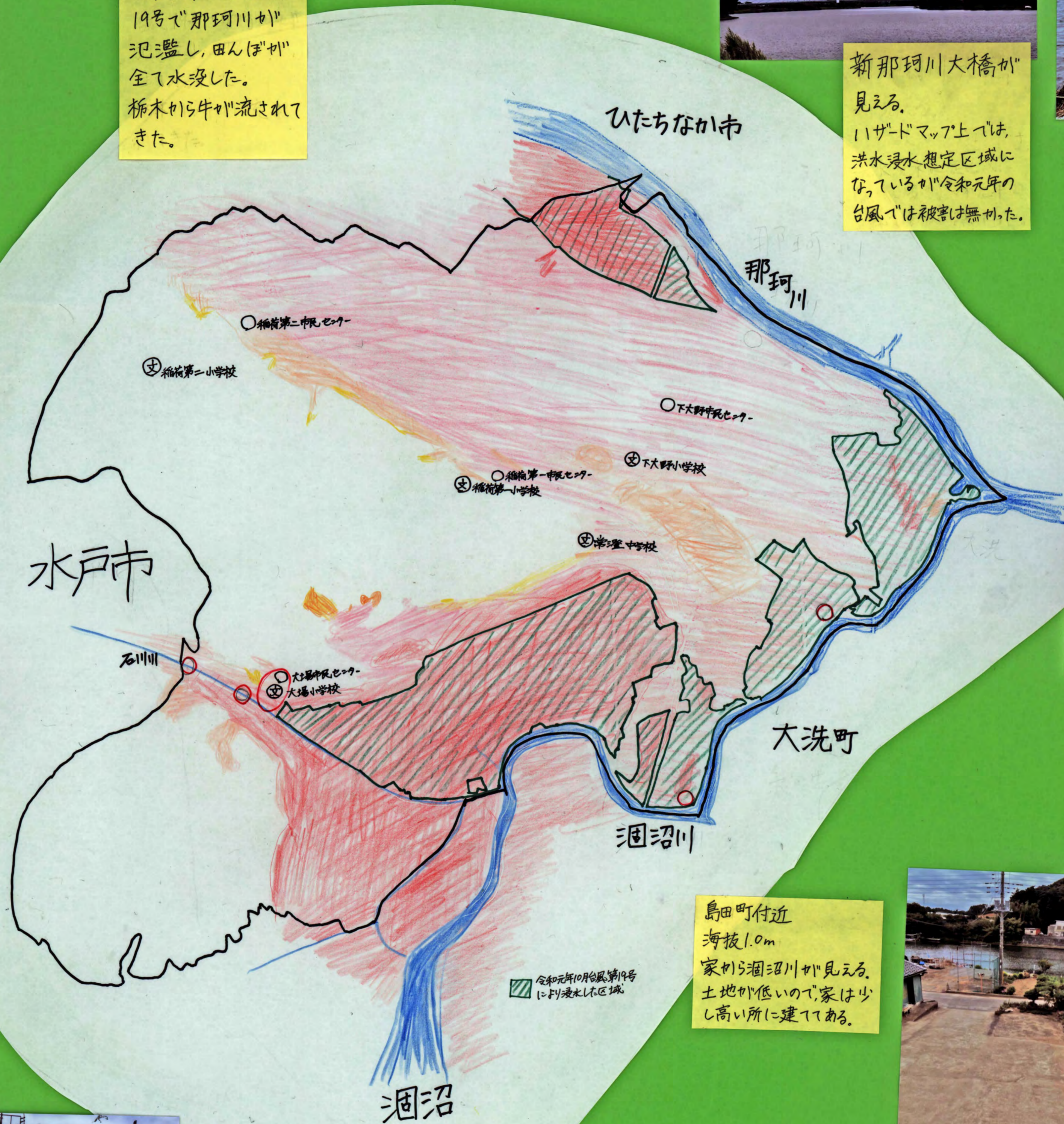
新那珂川大橋が見える。ハザードマップ上では、洪水浸水想定区域になっているが、令和元年の台風では被害はなかった。



ごみが多く漂着する。環境問題も気になってくる。



石川 森戸橋付近
普段の水は少ない。



川又町付近
海拔2.5m
普段の涸沼川は、おだやかなが、令和元年のときは、庭・木が水に浸れたらしい。

久野さんの話
海の水位が高いと、那珂川の水が流れず、那珂川も涸沼川も氾濫してしまう。



島田町付近
海拔1.0m
家から涸沼川が見える。土地が低いので、家は少し高い所に建ててある。



江橋さんの話
涸沼川が氾濫しそうになると、早めに高台に大事な農機具や車などは避難しておく。



大場小学校
令和元年のときは、近くの田んぼは水没したが、小学校には被害はなかったらしい。



大場町付近
海拔5.4m
大場市民センター

分かったこと・感想

私は常澄地区で生まれ育ったが、土地の高低差や大雨による被害を今まで知らなかった。しかし今回調べてみて、各地域の被害の大きさが分かった。だから私は、この機会を生かして水害の対策や避難経路などを知っておきたいと思った。



令和元年の様子
庭は完全に水没している。家は高く建てたので、家に水は入らなかったらしい。

